

公益財団法人 オイスカ FURUSATO! 7月号

～オイスカ四国のふるさとづくり～

各推進協議会の総会に参加！

今年度は、各推進協議会の総会（右記参照）が開催され、研修生も晴れやかな気持ちでオイスカ会員の方々の前で自己紹介や自国の紹介を披露させていただきました。ここでは、「香川東」「三豊」「綾川」の総会の様子をお伝えさせていただきます！

皆さん、こんにちは。オイスカ香川東推進協議会の総会は初参加のビアンです！

初めて参加したので、「はじめまして」の方々が多く緊張しましたが、とても良い経験でした。マレーシア、フィジー、モンゴル、ミャンマーからの研修生が自国の紹介発表をしました。夕食の時間には、研修生がミャンマーとマレーシアの踊りを披露し、楽しいひと時となりました！（ビアン）

5/17（水）高松推進協議会
5/23（火）中讃推進協議会
6/10（土）香川東推進協議会
6/20（火）三豊推進協議会
6/22（木）坂出推進協議会
6/24（土）綾川推進協議会



香川東

待ちに待った三豊推進協議会の総会が開催されました。去年は、コロナの影響で開催されませんでした。今年、無事に開催することができ、稲田会長をはじめ、運営事務局の皆様、三豊推進協議会の会員の方々に感謝を申し上げます。センターで用意したバザー品（シフォンケーキ・ジャム）を購入いただき、また、センター改修募金までご協力くださり、本当に感謝しております！楽しいひと時をありがとうございました！（山崎）



三豊

綾川推進協議会総会は、四国研修センターにて滞りなく終了いたしました。この度は、新会長、新副会長に交代し、四国研修センターの活性化への意欲が一層高まりました。

懇親会では、多くの皆様にご参加いただき、青年部の素晴らしい演奏や研修生の研修目標の発表と華やかなダンスで大いに盛り上がり、大成功を収めることができました。

皆様のご支援とご協力、心より感謝申し上げます。今後もご支援を承りますよう、よろしくお願い致します。

（四軒家）



新会長：川西様
新副会長：富川様
新副会長：三好様
新副会長：川崎様

綾川

はくしんこどもかい 博進子供会/アジャタ大会/どろんこ祭り

皆さんお疲れ様です。6月10日（土）に、博進子供会主催によるサツマイモのつるさし交流が開催されました。短い時間でしたが、皆で力を合わせて、約300本のサツマイモのつるさしを行いました。収穫の時期には、皆と一緒にサツマイモ掘りをしたいと思います。今年もぜひ参加してください。ほんだらな。（ビアン）



はくしんこどもかい 博進子供会

6月25日（日）に綾川町で行われたAJTA(アジャタ)(All Japan Tamaire Association) 大会に参加しました。

AJATA(アジャタ)とは5～6人の選手が合計100個のボールをバスケットに入れるまでの時間を競う「玉入れ」です。チームワークが重要な競技で、研修生も職員も「どうしたら早く玉を入れられるか」作戦を練って競技に挑みました。優勝はできませんでしたが、みんなで協力することの楽しさを実感できる1日になりました。（吉田）



アジャタ大会

どろんこ田植えフェス、今年も開催しました！梅雨入りしていましたが当日は快晴！研修生も、ちびっ子達も、みんなで声を掛け合って、しっかり苗を植えました。その後には、隣の田んぼでどろんこ綱引き。泥まみれにならないように、必死で引っ張り合いました。終わってからはみんなでお昼ご飯を食べて楽しい1日となりました。申し込み多数のためご参加いただけなかったみなさま、稲刈りはぜひ一緒に！（安部）



どろんこ田植えフェス

7・8月の予定

日	イベント名	主催・協力	場所
7/5	第319回支部常任幹事会	四国支部	四国研修センター
7/8	「富士山の森づくり」活動	オイスカ本部	富士山
7/26	森のつみ木広場	高松市環境局環境総務課	四国研修センター
7/29	広島「山・林・SUN」体験	広島県支部	広島市
8/2	第320回支部常任幹事会	四国支部	四国研修センター
8/5	陶校区夏祭り	博進踊ろう会	陶小学校
8/4,10,22,30	森のつみ木広場	高松市環境局環境総務課	諸所

「FURUSATO!」7月号 発行
公益財団法人 オイスカ四国研修センター
〒761-2103 香川県綾歌郡綾川町陶 5179-1
TEL 087-876-3333 FAX 087-876-3334
E-mail: oiscastc@oisca.org



古本で！

「子供の森」計画サポートプロジェクト



ウズベキスタンに想いを寄せて♪

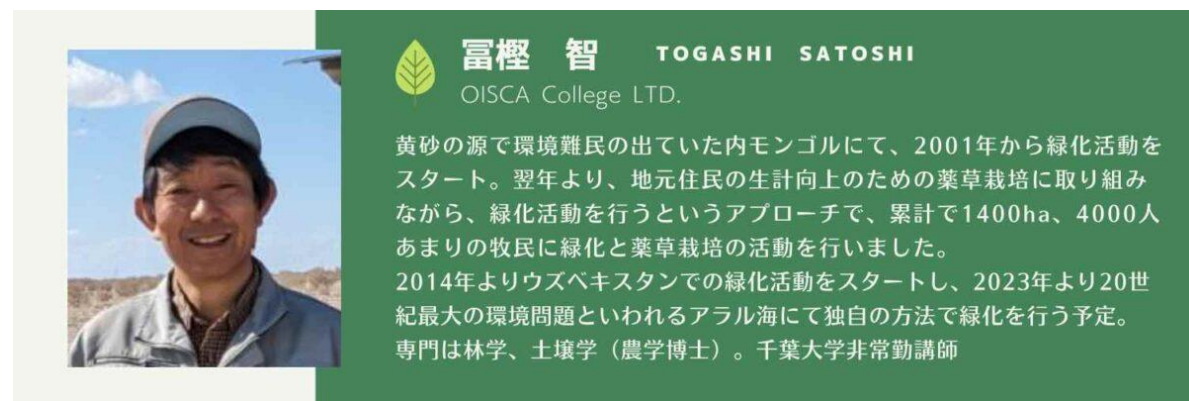
今春から本格的にアラル海での緑化事業と薬草栽培プロジェクトがスタートしました。アラル海という場所は、かつては世界第4位、琵琶湖の100倍もの広さがありました。しかし、年間降雨量がわずか100ミリのアラル海に注ぐアムダリア川の水が、流域の綿花栽培の灌漑によって徐々に減り、アラル海の水量は、かつての1/20までに干上がってしまいました。

普段、私たちが着ている綿の約10%は、このウズベキスタンで栽培されたものだといわれています。まったく遠い国の話ではありません。私たちオイスカができることは、緑化技術で沙漠化したアラル海に緑を戻すことです。これまで同じような環境の内モンゴルで20年培ってきた植林と薬草栽培技術をウズベキスタンでも普及させることで、緑のアラル海を実現していきます。

かつてアラル海の海底だった場所を歩いていると、砂漠地帯に生息するアカザ科のサクサウルという灌木の近くに不老不死の薬草、ニクジュヨウが顔を出していることがあります。ニクジュヨウは、日本では厚生労働省により生薬や医薬品として認められる種類もあり、養命酒など、既に様々な製品に使われています。サクサウルの植林とニクジュヨウの栽培を組み合わせることで、緑化と同時に住民の生計向上にもつながり、持続可能な緑化プロジェクトとなることを目標としています。

ウズベキスタンでは冬に雨が降るため、春先の水分が多く、飛行機でタネを播くことができます。その反面、夏は65℃、冬はマイナス40℃という厳しい環境でもあります。そして塩害がひどく塩類濃度が通常では2以下ですが、200以上ある場所もあります。また、苗の作り方も異なりますが、どちらが適した方法かを実証している所です。

例えば種子の羽根を付けたまま蒔く方がいいか、取った方がいいかという議論になりました。内モンゴルでは羽根を取っていたのですが、ウズベキスタンの林業局やカウンターパートであるカラカルパクスタン農業大学の方々は、そのままの方がいいという話でした。そこでシャーレで播種試験をしましたが、その差は歴然としていました。こうしたことは、実際にやってみて証明することで変えることができます。これまでの知見と現地に合った方法を合わせて、一步ずつですが進んでいきたいと考えています。（富樫）



（オイスカスタッフブログより引用）

干上がってしまった湖の調査



（左：現在、四国研修センターで研修中のジャンボ。帰国後は、富樫氏と共にオイスカ活動をする予定）

四国支部 30 周年記念式典・トークイベントの開催！

6月22日（木）ユープラザうたづで約130名の会員と駐日ウズベキスタン共和国大使館特命全権大使ムクシンクジャ・アブドゥラフモノフ閣下の参加のもと、四国支部創立30周年記念式典と記念講演会の「トークイベント・アラル海を緑に！砂漠緑化への挑戦」が開催されました。

オイスカ発足62年。香川では青年会を中心に活動を展開している中、佐藤忠義初代会長との素晴らしい出会いと時代を超えるリーダーシップで香川だけではなく四国4県を束ねる支部としてスタートし、オイスカ会員の1/4の会員が四国になるところまで発展してきました。

経営の基本は「ヒト・モノ・カネ」という言葉があります。会員、スタッフ、研修生など大勢のヒトに研修センターや畑、森などこれらを運営することのできるよう、これから四国支部は会員の皆さまと四国研修センターが車の両輪のように共に40年、50年を目指して参りたいと泉会長の強いメッセージが有りました。



ウズベキスタン大使も参加していただき、

記念すべき 30 周年式典となりました！

貧しい時代を経て、今はデジタルやAIの時代が到来したとはいえ、変わらないことがあります。”土から離れない“トークイベントでは、90名余が参加し、ウズベキスタンのアラル海の現状や問題点また、解決案として内モンゴルでのノウハウなどを活かして砂漠の緑化への希望の光が見え始めていることが分かりました。食料問題の解決には、やはり農業であることも改めて認識することが出来ました。次の日の23日は、大使の研修センターの訪問を祈念して記念植樹もしました。（チェ）



きれいな花が咲くように
しっかりと管理して、
大使の再訪問を
心よりお待ちしております！

祝賀会の様子

記念植林の様子